

一 次の各問題に答えなさい。

問一 次の①～⑩の——部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① 家族の安否を気にかける。
- ② あの体験は幼心にも恐ろしかった。
- ③ オペラを劇場で観る。
- ④ 誰もなしえない記録を樹立した。
- ⑤ 居間にテレビを置く。
- ⑥ 見事に的をイる。
- ⑦ 行き先を力える。
- ⑧ 母の力わりに買い物に行く。
- ⑨ シュウニユウを得る。
- ⑩ 会社にシュウシヨクする。

問二 次の①～⑩の空らんにくさわしい言葉を語群A～Jから選び、また、その意味を後のア～コから選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものを二度用いてはいけません。)

- ① も山の賑わい
- ② にも涙
- ③ 案ずるよりが易し
- ④ の力持ち
- ⑤ にも礼儀あり
- ⑥ 藪をつついて
- ⑦ 笑う門には
- ⑧ 能ある鷹は
- ⑨ と地頭には勝てぬ
- ⑩ は人のためならず

- 1 -

語群

- A 枯れ木  
B 爪を隠す  
C 産む  
D 情け  
E 親しき仲  
F 縁の下  
G 福来たる  
H 蛇を出す  
I 泣く子  
J 鬼の目

意味

- A 実力のある者ほど、それを表面に現さないということのたとえ。  
 I 無慈悲な者も、時には慈悲心を起こし、涙を流すことがあるということ。  
 ウ 物事はあれこれ心配するより実行してみれば案外たやすいものだ。  
 エ 他人のために陰で苦勞、努力をすること。  
 オ つまらないものでも、ないよりはましであることのたとえ。  
 カ 必要もないことをしたために災いを受けるたとえ。  
 キ 明るくにこにこしている人には、自然と幸福が訪れる。  
 ク どんなに親密な間柄でも、守るべき礼儀があるということ。  
 ケ 道理の通じない相手には、黙って従うしかない。  
 コ 人に親切にすれば、やがてはよい報いとなって自分にもどってくるということ。

- 2 -

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

常識にとらわれないで、大胆に発想の転換を試みてみましょう。発想を転換するには、極端なことを考えてみるのも一つの方法です。

そこで、一〇〇〇年先の地球を考えてみましょう。こうした未来の話は、科学では扱えません。ところが、人間は自由に考えることができます。サイエンス・フィクション(SF)の世界、A マンガとかアニメとか、そういう世界では人間は自由に空想し、表現します。

しかし、そうやって人間が空想したことが現実になるということも、数多く知られています。一〇〇年前に、人間が宇宙旅行をする、月へ行くというようなことは、作り話(フィクション)の世界でのことでしたし、一〇〇〇年前に、遠く離れた人とたがいに顔を見ながら話をするができるなどということは、夢のなかのできごとしか理解されなかったにちがいません。しかし、今はそれが実現しています。そう考えていくと、「ごみゼロ社会」を空想するのも、あながち無意味なことにはならないでしょう。

2 ごみは、社会そのものと表と裏の関係にありますから、ごみの未来を考えることは結局、社会と地球の未来を考えることになります。

そこで、ごみのSFをつくらうとすると、未来をイメージしなければなりません。そのとき思想(見方、考え方)が大切になってきます。思想は大きく二つに分けられます。

一つは、人間の可能性、とくに科学技術の発達に未来を託すものです。ここから、宇宙空間への移住というシナリオが生まれます。

人間はつねに新しい技術を開発し、未開の地(フロンティア)を開拓してきました。コロンブスのアメリカ大陸発見から五〇〇年をへたこんにちでは、北極から南極に至るまで、地球上で人間の到達しないところはなくなってきました。地球が小さくなったのです。そして資源が減り、その分ごみが増えて地球のなかにたまってきています。

しかし、地球が資源の枯渇と環境の悪化で住みにくくなっても心配ありません。ちよつと目を宇宙に向ければ、無限に近い広さの空間が残されています。

そこで、人類は宇宙へ自分たちの生活空間を広げていく、そういう宿命とどうか、発展の必然性をもっていく、ふうに考えることができます。実

5 際、こういう考え方で、数十万人規模での宇宙居住計画がアメリカで提案されています。巨大な人工惑星をつくらうと、そこで新しい生活をすすめていく。ここでは重力を人工的に作り出します。そして、空気と水を運び込み、動物、植物、微生物からなる生態系をつくり、ごみを一〇〇%リサイクルします。計画の実現には日本円で約六〇兆円が必要と試算されていますので、すぐには実現しないでしょう。B SFの世界ではとくに実現しています。

映画『スター・ウォーズ』はその代表作の一つでしょう。地球から脱出した人間が、いくつもの人工惑星の浮かぶ宇宙空間で生活しています。光速に近い速度で移動することによって、人間は宇宙を十分に使いこなしています。6 こうした世界では、地球はどうなっているのでしょうか。資源をとりつくし、環境がごみでいっぱいになった地球は、そのほとんどが砂漠のような不毛の地になっています。そこにはロボットと奇形の動物とおちこぼれた人間が生きています。地球そのものがごみとして捨てられ、第二、第三の人工惑星が生活の空間となっています。

もう一つの思想は、ややCです。人間はおろか、結局は自らを減ぼしてしまおうというものです。この思想にもとづいたシナリオは、一〇〇〇年後でも人間は地球に住みつづけていることが前提になっています。宮崎駿の映画『風の谷のナウシカ』はその一つです。自然を破壊し廃墟と化した地球で、必死に生きようとしている人間の愛と闘いの話です。ここでは、さまざまな有害物質の捨て場である腐海からその有害物質を食物として生まれてくる王蟲という動物が出てきます。そして自然から資源を一方的に収奪して生産しつづけるようとする集団と、自然のなかに適合して生きていこうとする集団とのD がメインテーマになっています。

映画『猿の惑星』も同じ思想に立っています。これは、猿が万物の霊長として栄えている惑星での話です。あるとき言葉らしいものをしゃべるめずらしい動物が発見されます。オリに入れて見せものになりますが、じつは、このめずらしい動物は人間なのです。E ラストシーンでこの猿の惑星は、地球そのもの——人類が減じたあとの地球だったことがわかっていくわけなんです。

F、この二つの思想はどちらが正しいのでしょうか、第三の道はないのでしょうか。「ごみゼロ社会」のシナリオには、第三の思想が必要です。

※ 枯渴<sup>くかつ</sup>物が尽きてなくなる。

※ 宿命<sup>しゅくめい</sup>前<sup>まへ</sup>世<sup>よ</sup>から定<sup>さだ</sup>ま<sup>ま</sup>つてお<sup>お</sup>り、人<sup>ひと</sup>間の力<sup>ちから</sup>では避<sup>さ</sup>け<sup>ら</sup>れ<sup>ら</sup>ない運<sup>うん</sup>命<sup>めい</sup>。

※ 必然<sup>じつぜん</sup>性<sup>せい</sup>に<sup>よ</sup>り<sup>て</sup>な<sup>る</sup>以<sup>も</sup>外<sup>が</sup>に<sup>あ</sup>り<sup>え</sup>な<sup>い</sup>こ<sup>と</sup>。

※ 生態<sup>せいざい</sup>系<sup>けい</sup>に<sup>あ</sup>る<sup>地</sup>域<sup>いき</sup>に<sup>あ</sup>る<sup>生</sup>息<sup>せい</sup>す<sup>る</sup>す<sup>べ</sup>て<sup>の</sup>生<sup>せい</sup>物<sup>ぶつ</sup>群<sup>ぐん</sup>集<sup>しゅう</sup>と、そ<sup>れ</sup>を<sup>と</sup>り<sup>巻</sup>く<sup>環</sup>境<sup>かんきょう</sup>と<sup>を</sup>ふ<sup>く</sup>含<sup>く</sup>ん<sup>だ</sup>全<sup>ぜん</sup>体<sup>たい</sup>。

※ 奇<sup>き</sup>形<sup>けい</sup>に<sup>あ</sup>る<sup>普</sup>通<sup>ふつう</sup>と<sup>異</sup>な<sup>つ</sup>た<sup>珍</sup>し<sup>め</sup>い<sup>ず</sup>い<sup>さ</sup>・<sup>形</sup>。

※ 宮<sup>みや</sup>崎<sup>さき</sup>駿<sup>しゅん</sup>に<sup>あ</sup>る<sup>ア</sup>ニ<sup>メ</sup>ー<sup>シ</sup>ョ<sup>ン</sup>作<sup>さく</sup>家<sup>か</sup>・<sup>映</sup>画<sup>えい</sup>監<sup>かん</sup>督<sup>とく</sup>。

※ 収<sup>しゅう</sup>奪<sup>だつ</sup>に<sup>あ</sup>る<sup>強</sup>制<sup>きやうせい</sup>的<sup>てき</sup>に<sup>と</sup>り<sup>上</sup>げ<sup>る</sup>こ<sup>と</sup>。

※ 万<sup>ばん</sup>物<sup>ぶつ</sup>の<sup>霊</sup>長<sup>れいぢやう</sup>に<sup>あ</sup>る<sup>中</sup>で<sup>最</sup>も<sup>す</sup>ぐ<sup>ら</sup>に<sup>あ</sup>る<sup>物</sup>。

問一 空らん  A  B  E  F に入れる言葉としてふさわ

しいものを次から選び、記号で答えなさい。(ただし、同じ記号を二度用

意は避けません。)

問二 — 線1「今はそれが実現しています」の「それ」にあたるものとして

ふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 一〇〇〇年前に人間が月へ行くというようなこと

イ 遠く離れた人とたがいに顔を見ながら話をする

ウ 夢のなかのできごと

エ 人間が空想したことが現実になること

オ 「ごみゼロ社会」を空想すること

問三 — 線2「ごみは、社会そのものと表と裏の関係にあります」とはどう

いう意味ですか。ふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ごみは社会とともに発達するという意味。

イ ごみ問題と社会問題は根本的に対立するという意味。

ウ ごみは社会の裏側で発生するという意味。

エ ごみ問題は社会の問題であるという意味。

オ ごみは社会の表と裏を逆転させるという意味。

問四 — 線3「思想は大きく二つに分けられます」とありますが、この「二

つ」の「思想」にあてまるものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 科学技術の発達により、人類は宇宙へ生活空間を広げていくのだから、地球でごみが増えてもかまわない。

イ 科学技術の発達に未来を託し、「ごみゼロ社会」を実現させよう。

ウ 人間はつねに新しい技術を開発し、地球上で人間の到達しないところはなくなくなっていく。

エ 地球の環境はどんどん悪くなり、結局人類は滅んでしまう。

オ 自然を破壊し廃墟と化した地球で必死に生きていく

カ 言葉らしいものをしゃべるめずらしい動物はじつは人間なのだ。

問五 — 線4「地球が小さくなった」——線7「不毛の地」とはどういう意

味ですか。それぞれ説明しなさい。

問六 — 線5「こういう」の指す内容を「・・・という考え方」が続くよう

に、本文中の言葉を用いて二十五字で答えなさい。

問七 — 線6「こうした」の指す内容を「・・・世界」が続くように本文中

の言葉を用いて十五字で答えなさい。

問八 空らん  C に入れる言葉としてふさわしいものを次から選び、記号

で答えなさい。

ア 主観的    イ 客観的    ウ 楽観的    エ 悲観的    オ 大局的

問九 空らん  D に入れる言葉としてふさわしいものを次から選び、記号

で答えなさい。

ア 対立    イ 比較    ウ 垂直    エ 対極    オ 平行

問十 — 線8「ごみゼロ社会」のシナリオには、第三の思想が必要です

とありますが、なぜ第三の思想が必要なのか、説明しなさい。

問十一 — 線9「ごみゼロ社会」のシナリオには、第三の思想が必要です

とありますが、なぜ第三の思想が必要なのか、説明しなさい。

問十二 — 線10「ごみゼロ社会」のシナリオには、第三の思想が必要です

とありますが、なぜ第三の思想が必要なのか、説明しなさい。

